

エゾマツ

北海道ボランティア・
レンジャー協議会
エゾマツ20号
平成4年1月14日

発行責任者 河村千束

「巻頭言」

生きている森に愛と理解を深めよう

副会長 大友 健

“森は生きている”この言葉は何と素晴らしい言葉であろうか。この言葉こそ、森が生きているから人間も生きていると、言い換えても過言でないと信じたいのです。森の生き方は、森林の見方によって、いや、見る立場の人によって、違った考えにもなるのは事実ではないでしょうか。

森林を眺め、自然の共同体としての営みを知る人もあり、森林を事業的に眺め、取り扱いの判断を下す立場の人々もいるのです。具体的になりますが、植林を計画する人々、森林を構成する樹木の成長量の増大と、利用する樹木の量を定め伐採を計画する人々、これらの人々が有機的に連携を保ち、自然の破壊にならぬよう自然の復元の増につながる、山地基盤の確保のため、治山方法を考える人々がをり、全てが林業の経営という長期的なサイクルで、生産的に森林を眺めている事を理解する必要があると思うのです。私たちの生活における必需品の資源として、木材の利用度は身じかなものとして、一時も忘れることはできないだけに、人間がどのように森林を見るにせよ、森林は生物としてそこにある限り、その反応を通して私たちは生きていることになるのではないのでしょうか。即ち“森林は生きている”とすることを知らることが、人々の立場における違いを、基本的に同一のものにし、愛情にみちた森林の取り扱いに、つながって行くものではないのでしょうか。

森林を含め生物の生活には、いろいろな段階的なレベルがあるとされており、それは、固体の集まりから種の社会、さらに発展し種間の働き合から共同体と言う生物のレベルになって、それなりに自然の法則と言うようなものができて、これらについては、森林に入り深く、細かく、観察を重ねるうちに理解度が深まり、その自然の法則に反しない取り扱いの現実林を、生物の共同体として観察する機会がたくさんあると思うのです。

森林内の太陽光線の働き、それからくる、上層林木の枝の広がりやの程度、林床の植物の違い、地表の細かい地形の違い、土壌の違いなど微妙に絡み合っていることがわかります。上層と同じ樹種でも下層にある場合の稚樹は、悪条件に耐えながら成長を続けている姿を目にすることが多くあります。

森林の構造や組成などは、環境条件に適応した植物を集め、互いの間の働きかけを通して、うまく共存関係を作り上げ、自然の美しさ、力強さを我々の前に見せてくれているのです。自然の美しさは、植物群落とか植物共同体などばかりでなく、野鳥はもち論のこと、ネズミ、ウサギなどのほ乳類、昆虫類、土壌動物類、など植物連鎖の関係から、動物共同体と言うものが存在し、そして植物群落と動物群集との間にも、すみかや、植物関係を通して密接な関係が生じ、一つの生物共同体があると言われております。

このように考えて来ると、自然は本当に奥深く、未知の世界のように思われて、親しみが増してさえて来るのです。このことは、皆様も同じではないでしょうか。

最近では、森林機能に対するニーズの多様化により、自然力を生かすためにも、きめこまかな森林の取り扱いがなされ、生産的にも、利用、活用的にも十分な配慮が行政指導でなされていることを、私たちは高く評価しながら、本年は大いに機会をとらえ多種、多様な森林に足を踏み入れ、多面的な理解を深め、より豊かな知識を身につけ、ボランティアレンジャーとして、力強く燃える一年でありますよう祈念申し上げます。



ハルニレ



キタコブシ

10回の育成研修会を終えて

北海道保健環境部自然保護課

保全係長 三 岡 修

ボランティア・レンジャー育成研修会が昭和61年にスタートしてから、今年で6年が過ぎ、10回の研修会を終了しました。その結果、全道で397名のボランティア・レンジャーが誕生し、各地でそれぞれ活動されています。

10回の研修会を終えた機会に、これまでの若干の経過や皆様方の活動の一端などをお知らせしたいと思います。

この研修会は、道の政策上自然保護に対する考え方を広く普及啓発する方策の一環として位置付けられています。その目的も、研修会の開催要領等で皆様方にはすでに御承知のように、「住民自身が、自らのために、自らの手によって人と自然とのかかわりについて理解と認識を深め、責任ある行動がとれるように、学習する。」ことを基本とし、その橋渡し役になれる人を養成することにあります。

そして地球規模での環境問題が声高に叫ばれ、自然や環境に対する世論の理解と認識が高まる中であって、研修会の目的や考え方が、多くの人々の共感を得るところとなり、受講希望者も年ごとに増えてきています。このような状況を踏まえて平成2年度からは、事業の拡大を図り、年3回開催することになりました。

本研修会に対しては、札幌市を中心とした道央地域だけでなく、全道各地での開催を求められ、また、それぞれの地域で地道に活動している方や、そのような活動を望んでいる方々が多数おられることから、できるだけ全道で開催することに努めた結果、次のとおり7支庁で開催することができました。

渡島・上川・日高・網走・後志各支庁管内－1回 釧路支庁管内－2回

石狩支庁管内－3回

その結果、ボランティア・レンジャーの方々も全道に誕生し、それぞれの地域で住民と密着した活動ができる体制が整備されつつあります。

支庁毎のボランティア・レンジャーの配置状況は、次のとおりです。

| | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| 石狩：159名 | 渡島：25名 | 後志：20名 | 空知：21名 |
| 上川：28名 | 留萌：9名 | 宗谷：6名 | 網走：32名 |
| 胆振：27名 | 日高：9名 | 十勝：29名 | 釧路：28名 |
| 根室：3名 | 道外：1名 | 合計：397名 | |

しかし一方で、ボランティア・レンジャーの活動の場の確保をはじめとして、相互間の情報交換や組織化や協力体制の整備等ボランティア・レンジャーの皆様

が活動を続けていく上での、多くの問題があることも指摘されています。このような中で、道では全道のボランティア・レンジャーの方々の活動をより積極的に支援をし、また、情報交換や協力体制の一助になることを願って、平成2年度からは各支庁毎に自然教室を開催するための経費を予算化しました。(この経費の中には皆様方が、ボランティア・レンジャーとして参加してもらうための旅費等もふくまれています。)

道は、自然教室の開催をとおしてボランティア・レンジャーの方々に実践の場を提供し、また、地元の市町村や教育委員会や各種の団体と協力しあいながら、実際に住民と共に自然にまなび、体験する、自然環境教育活動の場にしたいと考えております。

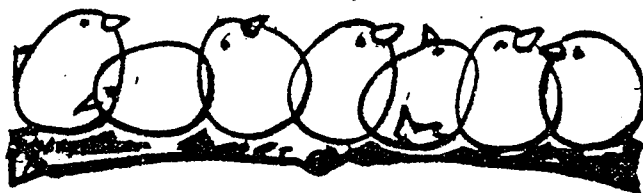
これによってボランティア・レンジャー関連事業としては育成研修によってボランティア・レンジャーを養成し、実践セミナーによって事後研修に努め、自然教室によって活動の場を提供するという、一連の行政サービスが一応整備されたことになると思っております。

しかしながら、この2年間の自然教室の開催状況を調べてみますと、私達のこの事業にたいする皆様へのPR不足や各支庁での取り組みの不足等もあって、残念なことにボランティア・レンジャーの参加が思ったより少なく、行政側の反省とともに皆様方の今後の積極的な参加を希望するものであります。

過去2年間の事例をみますと、自然教室への参加の仕方も色々あるようで、講師として参加している方がいたり、自然観察会等の解説者やその補助者として参加されている方もおられるようです。また、一住民として参加され、先輩ボランティア・レンジャーの活動を実地勉強されておられる方もいると聞いております。いずれにしても皆様方のための、せつかくのチャンスであります、また、平成4年度も全道各地で自然教室を開催する予定でありますので、それぞれの力量に応じた無理のない仕方に参加されることを重ねてお願いします。

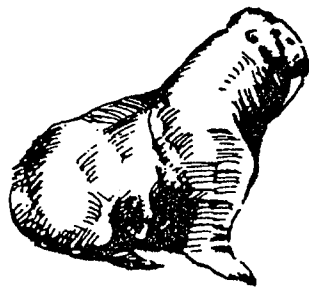
「習うより慣れろ」と言った気持ちも必要でないかと思えます。

なお、自然教室の開催状況はつぎのとおりです。



(1) 平成2年度の実績

| | 実施日 | 実施場所 | 共催団体等 | 参加者数 | ボラ.レンの参加者 |
|----|------------|------------------|--------------|------|-----------|
| 石狩 | 9/2 | 恵庭市 緑のふるさと森林公園 | 恵庭市 | 30 | 河村千束 ほか |
| 渡島 | 7/14~15 | 函館市 函館山 | 函館市 | 32 | 斉藤秋葉 ほか |
| 檜山 | 7/1 | 乙部町 乙部岳 | 乙部町 ほか | 100 | なし |
| 後志 | 5/20 | 古平町 観音滝 | 古平町 ほか | 40 | 高橋美智子 |
| 空知 | 5/13 | 岩見沢市 利根別休養林 | 岩見沢市 | 69 | 船越淳一 |
| | 10/20 | 雨竜町 暑寒ダム | 雨竜町 | 35 | 米田稜 |
| 上川 | 8/4 | 美瑛町 白金野島の森 | 旭川市 | 48 | 石川悦子 |
| 留萌 | 7/1 | 留萌市 ルルモツベ憩いの森 | 留萌市教育委員会 | 23 | 祐川弘 |
| | 7/28~29 | 幌加内町 朱鞠内湖 | 留萌市教育委員会 | 17 | 祐川弘 |
| | 8/12, 11/4 | 留萌市 ルルモツベ憩いの森 | 留萌市教育委員会 | 41 | 祐川弘 |
| 宗谷 | 7/7~8 | 稚内市、豊富町 サロベツ原野 | 森境庁 ほか | 25 | なし |
| 網走 | 4/29 | 小清水町、清里町 JR網走線の旅 | 網走市 ほか | 122 | 滝口昇 ほか |
| 胆振 | 10/7 | 壮瞥町 有珠山、昭和新山 | 壮瞥町教育委員会 | 26 | なし |
| 日高 | 6/2~3 | 様似町 ピンネシリ山、アボイ岳 | 様似町 ほか | 69 | なし |
| 十勝 | 6/17 | 足寄町 オンネトー | クリーン阿寒推進協議会 | 8 | |
| | 8/18 | 陸奥町 かふとの里 | 陸奥町 ほか | 25 | なし |
| 釧路 | 4/29 | 清里町 JR網走線の旅 | 釧路市 ほか | 144 | なし |
| | 5/13 | 釧路市 春岳湖 | 釧路市博物館 ほか | 42 | 加藤龍男 |
| | 8/5 | 阿寒町 鹿阿寒岳 | 阿寒町 ほか | 31 | なし |
| | 10/27 | 弟子屈町 摩周湖第一展望台 | 弟子屈町教育委員会 ほか | 24 | なし |
| 根室 | 7/24~25 | 中標津町 緑が丘森林公園 | 中標津町 ほか | 187 | 池田真美野 |
| | 22日 | | | 1177 | |



(2) 平成3年度の実績

| | 実施日 | 実施場所 | 共催団体等 | 参加者数 | ボラ.レンの参加者 |
|----|------------|----------------|-------------|------|-----------|
| 石狩 | 10/13 | 当別町 道民の森 | 当別町 | 50 | 大友健 ほか |
| 渡島 | 7/20~21 | 函館市 函館山 | 函館市 ほか | 19 | 斉藤秋彦 ほか |
| 檜山 | 9/30 | 厚沢部町 土橋自然観察教育林 | 厚沢部町 ほか | 90 | なし |
| 後志 | 9/6 | ニセコ 穂の村 | ニセコ町 ほか | 42 | 片山健也 |
| 空知 | 5/12 | 岩見沢市 利根別休養林 | 岩見沢市 | 80 | 船造淳一 |
| | 9/8 | 桑沢町 ふるさとの森 | 桑沢町 | 70 | なし |
| 上川 | 8/3~ 4 | 国立大雪青年の家 | 旭川市 | 35 | 石川悦子 |
| 留萌 | 8/18 | 小平町 | 留萌市教育委員会 | 25 | 祐川弘 |
| | 9/22 | 増毛町 | 留萌市教育委員会 | 17 | 祐川弘 |
| | 11/3, 2/16 | 留萌市 ルルモツバ穂の森 | 留萌市教育委員会 | 50 | 祐川弘 |
| 宗谷 | 7/29 | 浜頓別町 ベニヤ現生花園 | 浜頓別町 | 38 | なし |
| 網走 | 6/9 | JR網走線ふれあいの旅 | 網走市 ほか | 100 | 須貝加代子 ほか |
| 胆振 | 10/10 | 橋本 | 登別市 ほか | 100 | 塚本富宏 ほか |
| 日高 | 9/5~6 | えりも町 えりも岬 | えりもシークラブ | 20 | 飯庭秀弘 ほか |
| | 9/28~29 | 新冠町 岩清水ダム | 新冠営林署 ほか | 40 | 松本健 |
| 十勝 | 5/18 | 帯広市 緑が丘百年記念館 | 帯広市教育委員会 ほか | 50 | なし |
| | 5/19 | 帯広市 緑が丘公園 | 帯広市教育委員会 ほか | 100 | なし |
| 釧路 | 5/12 | 釧路市 春採湖 | 釧路市博物館 ほか | 120 | 加藤照男 |
| | 6/9 | JR釧路線ふれあいの旅 | 釧路市 ほか | 112 | なし |
| | 7/14 | 釧路市 大菜毛海岸 | 釧路市 ほか | 100 | なし |
| | 8/10 | 丹頂鶴自然公園 | 釧路市 ほか | 100 | なし |
| 根室 | 7/30 | 根室市 春国峠 | 根室市 ほか | 60 | なし |
| | 23日 | | | 1431 | |



教えることと学ぶこと

士別市 野呂 一夫

いわゆる戦後にできた新制中学に入学した時、必修クラブというものがあって、全員がどこかのクラブに所属しなければならなかった。音楽や図工は下手くそで、運動関係はからきし駄目だから、それらは選択の対象にはならない。どこか何とかかなりそうな所はないかと、ようやく探し当てたのが科学クラブであった。

時の流れは早いもので、それから既に40年以上も経った。年齢のせいばかりとはいえませんが、最近はとみに物忘れがひどくなった。しかし、人間とは不思議なもので、その科学クラブの山歩きで初めて名を知ったベニバナイチヤクソウや、市街地のすぐ近くの湿地でみかけたモウセンゴケなど、当時相手にした草花達の姿は、しっかりと記憶されている。これは今流行語の「ニューロ」、つまりNeurai network の学習の成果であろうが、とにかく昔のことだけはよく覚えているものである。

それ以来の植物との付き合いであるから、自慢たらしさを許して頂くならば、周りの人達よりいくらか植物の名を多く知っていた。だから、若い頃から大した力もないのに人に教える側に立つことが多かった。教えるとか人前で話すことになれば、できるだけ野山へ入るし、字を読み、頭もしぼる。実際には、学んだことの半分も使うことはないが、そのうちの僅かずつでも自分の財産となって蓄積されてきたように思う。

こうしたわけで、自然や植物関係の様々な講習会や研修会に数多く顔を出しても、一般参加者として学ぶ機会は少なく、必ず何か仕事を与えられる。そのこと自体は、例え雑用係であっても嫌いではなく、むしろ裏方でお手伝いをするのは好きな方である。でも、心の隅のどこかに、純粋な気持ちで受講生として学んでみたいという願いを持っていた。しかし、なかなかその機会には恵まれなかった。

それが、大げさな言い方かもしれないが、今回ようやく念願かなって、ボラ・レンの研修会に参加することができた。丸瀬布町の3日間は、自然観察や自然保護のあり方をじっくりと学ばせて頂いた。それと同時に、自分を冷静に見つめ直す、貴重な時と日であった。

私は現在、小学校に勤務している。学校教育では、今後、自然体験学習や

環境教育が一層重視されるようになる。また、社会教育においても生涯学習のあり方が人々の間に浸透しつつあり、自然への関心が高まっている。こうした風潮を心底喜んでいる者の一人だが、それが単なる一時的現象や言葉の綾に終わることなく、本物に育って欲しいものと願っている。そのためには、教師にも子供にも地域住民にもよい環境に出合わせ、自然の豊かな恵みを体験させてやりたいと思う。

今はまだ、ボラ、レンの「若葉マーク」の自分であるが、協議会の会員にもさせて頂いた。今後は、自分自身のためにも学び続け、人と自然の仲立ちに幾らかでも役に立ちたいと考えている今日この頃である。

お知らせ

◎ 平成3年度の野幌森林公園事務所主催の森林観察会 について

本年度の野幌森林公園事務所主催の森林観察会は下記のとおりです。
多数のボランティア、レンジャー各位の参加を希望します。

㊦ 2 月 月 例 観 察 会

2月13日(木) 10:00~12:00

北海道開拓記念館前集合で、開拓記念館周辺を散策します。

㊦ ~~四季の森林観察会~~

冬の森林観察会

3月 1日(日) 9:30~14:00



「3月の森は、まだ白一ですが、膨らみかけた木の芽や小鳥たちのさえずりの練習などに、春の息吹を感じてみませんか。」

集合場所は江別市文京台野幌森林公園大沢口で、ボランティア、レンジャーの皆さんは事前の打ち合わせがありますので、9:00までにお集り下さい。

『千歳川放水路』

苫小牧市

越村住春

昭和61年夏、支笏湖畔で第1回講習を受けてから、早いもので6年経過しました。この間、自然に対する興味とか楽しさは増すことはあれ変ることはありませんが、この分野の知識は質・量ともに一向進歩発達していません。これは理由にもなりません退職後に学習を始めたことが要因と思いますし、結局は生来の怠け癖の然らしめる所と観念しています。

従ってレベルの高い当会員各位に交じって投稿するのは身の程知らずの行為ですが、最近身近で見聞する自然破壊のひどさに驚きかつ、慨嘆のあまり次ぎのように訴えたいと思います。

それはこの地方〈苫小牧〉にかなり大きな河川工事が始まりそうだからです。当地付近は道央圏に近いのに、また、大規模工業地帯とか港湾が次々と造成されたにもかかわらず自然が手つかずに命脈を保っている場所がまだあります。

これはご承知のように夏季低温〈濃霧〉の上、湿地帯が多く一面火山灰地という自然条件と樽前山山麓の広大な森林が国有林等の公有地という人為的条件により、辛くもガードされてきたからです。特にウトナイ湖と付近の河川・湿地帯などは奇跡的に自然が残されたと言っても過言でないでしょう。

従って日本で初めてバード・サンクチャリに指定され、また最近是我が4番目のラムサール条約指定地となったわけですが、近年この付近を通る千歳川放水路が計画され、実現するとその影響が心配になってきました。

本計画の目的は約10年前の石狩川水系洪水の際、石狩・空知等の『低地帯』の田畑・道路が冠水したための解決策として、千歳川を石狩川に流入するのを止めて太平洋へ放水するのになんと長さ約40軒、川幅平均400米、10年以上20年近い工期という大工事ですから、ウトナイ湖とその周辺の湿地帯の水位低下・乾燥化とか海水の逆流による塩害等、やはり影響は大きいと思います。

当然ながら年を追って地元でも賛否両論が激しく、この頃では政治問題化、即ち革新対保守の争いというあの嫌なパターンに発展した感がします。私

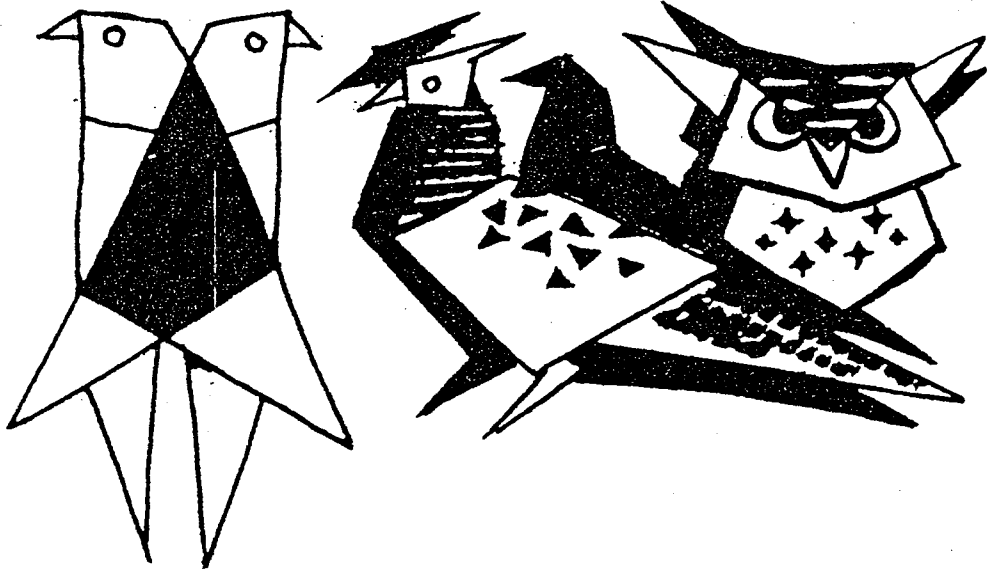
も当初は、十分な対策を講ずるなら放水路やむなし反対は地域エゴではないかと考えたものです。

ところがその後、聞くところによると本計画は最善を尽くすとしても自然に与えるダメージは予想以上であること。そして、重要なことは別な手段で石狩川洪水対策が可能だということです。

千歳川と石狩川の合流点に背割工法という工事を主体に、石狩川河口に放水路開削やその他遊水池などを設けることであり、その原理は水系の洪水はその同じ水系でなくては解決がが困難との論議によるものだそうです。〈日本科学者会議道支部〉

とすれば結論は明白でしょう。子孫のために、放水路計画は改めて慎重に再検討しなくてはならないと思うのです。

このような感想を述べることは、本誌の目的とか趣旨に外れるかも知れませんが、私達の自然観察行為からは外れたことではない。否むしろ究極の目的でないかと思えます。いかがでしょうか。



広島町 大久保 フ ヨ

私が自然保護運動を始めたのは、「自然と子どもは同じだ」と考えたからです。子どもについての基本的な考えとして、「子どもは、本来すばらしいのだ。子どもは、本来美しいのだ。子どもは、本来立派なのだ」と考えています。

自然も、すばらしく、美しく、立派です。そして、子どもも自然も、正しい愛情のもとに正しく保護され、正しく育てられなければあとで取り返しのつかない事になります。(子ども—家庭内暴力、校内暴力、自殺等々。自然—災害等。)

がしかし、現在の子どもを取りまく状況は、あまり好ましい状態ではありません。子どもが本来持っているすばらしい芽、美しい芽、立派な芽を引き出しのばす手助けをするのが、親や教師の仕事だと思いますが、今や、親も教師も、子どもが本来持っているこれらの芽をみんな摘んでしまっている気がしてなりません。学校でも勉強、家でも勉強、勉強さえしていれば良いというこんな知識優先の教育は、間違っていると思います。一人ひとりの個性を大切に育てることをしなければ、そのうち日本も滅亡するのではないかと危ぐするものです。

何故ならば、知識があっても感情が育っていないから、ロボットのような人間であふれると思うからです。ロボット人間ならば、人間の感情を持ち合わせていないので、どんな残酷な事でも出来るからです。

幼児を誘拐し殺害した宮崎勤、女高生をコンクリート詰めにした男子、ゲートボールを楽しんでいる人達をなぐり殺した男子等々、あげればきりがありません。最近では、幼稚園バスの運転手の幼児殺害等宮崎勤予備軍がたくさんいるのではないかと思っています。

今のような教育を続けていたら、こんな状態は続くと思います。宮崎勤等も、現在の教育の被害者ではないかと思っています。正しい愛情で、正しく育てられなかったからだと思っています。写真に興味を持った時に、それらの技術を正しく評価し、指導してくれる人がいたら、あんな恐ろしい事をしなかったと思いますし、私は、すばらしい写真家になっていたのではないかと思っています。それを思うと、とても残念に思います。

子どもは、誰だってみんな、すばらしい芽、美しい芽、立派な芽をもってこの世に生れてきたのです。私はどちらにも愛が存在しないという共通点から、学校荒廃と自然破壊は同じだと思えます。

一人ひとりの子どもを大切に作る学校には、荒廃などあり得ないのです。同じように自然を愛する者であれば、むやみやたらと木を切り倒したりする事はできません。自然は生命の源ですもの。自然の生命を絶つと言うことは、人間の生命も絶つことではないかと思えます。

リゾート法のもとに、自然がどんどん消え失せていく現状をみる時、なんとかしなくてはという思いにかられ、自分の力でできることをと考へ、ゴルフ場開発反対運動も始めました。

今の世の中は、昔からある諺が死語になりつつあるのではないのでしょうか。「三っ子の魂百まで」と言う言葉も、人間成長の過程で一番大切なこの時期の正しいしつけがなされていないどころか忘れられているのではないかと思えます。「可愛い子には旅させよ」「渡る世間に、鬼はなし」「早起きは三文の得」等……。

うっかり、遊んでもいられない危険な世の中です。自然が失われると、人間の心も変わっていくのではないのでしょうか。「自然は、すべての師」と言っても、その師になるべく自然もないのです。ルソーも「自然に還れ」と言っています。でも今や還る自然もないのです。

私は子どもの頃、学校から帰るとすぐ外に飛び出し、かけずりまわって遊びました。夏は小川に入って魚すくいしたり、舟を浮かべて遊んだり、池で泳いだりしました。冬は池でスケート。勉強は学校ですれば良かったのです。車のない社会、道路は格好の遊び場で竹馬、輪まわし、メンコ、ビー玉、釘さし、馬とび、石けり等々。天気の良い日は、みんなでいつも外で体を動かして遊んでいたものです。自然の中で育ったから、自然の大切さも知っているのです。今の子ども達をなんとかして、すばらしい自然の中に還したいと思うし、子ども達のために自然をとり戻したいと思っています。

その為には、教育も根本から考えなければなりません。小学生から落ちこぼれつくるのは間違っているのです。教育の内容をもっと易しくして、充分遊べるようにしなければ。

「遊びは、子どもの生命」です。遊びの知らない子、遊べない子、それは死んだ子と同じだとさえ思っています。親は、子どもから遊びを取り上げてはいけないのです。子どもにとって、ある時期においては、勉強より遊びが

大切な時期もあるのです。

今、登校拒否やいじめ等が問題になっていますが、それらの子ども達を自然に戻したら、みんなすばらしい子になると思います。

リゾート開発やゴルフ場開発で、子ども達から豊かな自然を取り上げた大人の務めとして、これからはみんなで、自然をとり戻す努力をしなければ子ども達に対して申し訳がたたないのではないのでしょうか。

情操豊かな子を育てよう。心の優しい子を育てよう。ひとの痛みがわかる子に育てよう等々。とお題目をあげても、それらの素地を作るべく自然をないがしろにしているのが大人なのです。気がついているのでしょうか。



~~~~~お願い~~~~~

北海道ボランティア・レン  
ジャー協議会入会申し込みと会費の  
納入について

入会は会則（第五条）により、会費の納入によって入会及び継続会員として手続きがされたものとします。

年会費は**3000円**です。

郵便振替口座

**番 号** 小樽 8-21442

**名 称** 北海道ボランティア・レンジャー協議会

現金の納入その他不明な点がございましたら、ご手数でしょうが下記にご連絡ください。

〒 065 札幌市東区東苗穂6条1丁目8-26

小 竹 数 博

☎ 011-784-6251

## 自己紹介

札幌市

藤田 正次

ある日、新聞を読んでいてボランティア・レンジャーのお知らせが目につきました。第10回当別町道民の森の研修に参加しました。そして、自然解説員の一員になってしまったのです。(申し訳ない気もしています)

とは言ったものの何の理由もなく参加した訳ではありません。3年程前に青森県弘前市から札幌市に移ったのを機に、網をカメラに持ち替えて蝶を撮り始めました。レンズを通して映る蝶は、様々な表情を私に見せてくれました。思うにそれまで、野外でじっくりと蝶を観察することなどなかったのです。そんな時、ボランティア・レンジャーのお知らせが目止まったのです。

研修はとても楽しいものでした。森、樹木、野生動物の話、野鳥観察。そして、人にひとつの事を伝える難しさしさを教えて頂きました。一番嬉しかったのは、自然を通して話が出来る方々に沢山会えたことです。

しかし、自然解説員になったものの、蝶の知識が少しあるだけで後はまるでなし。そこで暇をみつけては様々な図鑑に目を向ける今日この頃です。

そんな私ですが、自分なりに頑張ってみようと思っていますので、皆さん！これからも一層のご指導をよろしくお願い致します。



### ◎ お知らせとお願い

5月7日(木)～13日(水)、N・H・K市民ギャラリーで「しじみ蝶」の写真展を開けることになりました。

下手は下手なりに、自分では一生懸命に撮りましたので、是非とも皆さんにお立ち寄り頂け、一声掛けてもらえれば嬉しく思います。

どうぞ、宜しくお願い致します。

平成 4年 1月30日

☎ 011-772-2534

## 『本当の出会い』

札幌市

西尾貞敬

私は、仕事の関係からよく山々を歩いた。と言うよりは、職場が山にあるからと言った方が正しいかもしれない。

作業員と歩きながら「この木は？」と問うと、「駄目です。使いものにはなりません」「この木は？」、「それはいいですよ」と。こうして良い木、駄目な木と選り分けて行く。駄目と言われた木を見上げて「この木は役立たずか」と。

さて、この何十年間仕事柄だけでなく、私自身の物を見る目がそうになっていた事に気付いたのは、定年を迎えてからである。

ある日、勾配のきつい山道の曲り角で、ふと目の前に白い花が一輪。ええ……「こんな小さいのに花を咲かせて」木の陰で、しかも見落とせば踏まれてしまいそうな感じだ。しゃがみ込み、じつと花を見つめてから、手で触る。こんな小さな花がこんな処で誰れにも見られる訳でもないのに、一所懸命に花を咲かせている。その姿を見て、思わず涙が出た。余りにも健気に咲いていたのである。

次ぎに山を登ったとき、脇道の処で小さなピンクの花を一杯つけた植物を1本みつけた。よく見ると茎がねじれている。でもとても可愛らしい。きよろ、きよろと辺りを見回しながら登ると、さらに3本見つけることが出来たが、やはりねじれている。何故、ねじれているのか不思議な気がした。「こんなに可愛いのに」。早速図書館へ行き、植物図鑑を借りてページをめくっていくうちに、ふと目についた。ああ……何時も見かけるこの花、そこには「エゾエンゴサク」と書かれていた。それではとまたページを進めると見覚えのある花が「エンレイソウ」と書かれていた。やあこんな雑草にも名前があったんだあ……と、そしてねじれた「ネジバナ」と可憐な「ヒメイチゲ」を知ることが出来た。

そんな中でふと「駄目な木」「役立つ木」にも、それぞれ名前がある筈。……と気がついた。そう言えば作業員が木の名前を言っていたなあ……と思い出された。

当時の私には名前などどうでもよく仕事の上で必要な木が、それぞれ必要な数だけ揃えさえすればよかったのである。後はどのように使い分け、どう

利用するかが私の仕事であった。

私はここで「木は人間のためにあるのではない。人間が、都合の良い木を利用してただけだ。」と気がついたのである。

本屋に行き、鮫島惇一郎さんの「北海道森と林」を購う。そのほか、「森の生態学」「森林の生活」「森と木の文化」「水と緑と土」「森林の思考」「環境考古学」と読み進み、次ぎのことを知った。

——人間にとって森や木は ——

- 1 ……人の心に安らぎを与える
- 2 ……酸素を供給してくれる
- 3 ……大気を浄化してくれる
- 4 ……騒音を防止してくれる
- 5 ……水を貯え、水源をかん養する
- 6 ……土砂の流失を防ぎ、山崩れ・がけ崩れを防止する
- 7 ……風を防ぎ、豪雪や濃霧から土地を守る
- 8 ……冬暖かく、夏涼しいなど気温の調節をする
- 9 ……土壌という自然の生産力を培う
- 10 ……野鳥の保護をする

こんなにもたくさん、森林は私たちを守ってくれているのだ。これからは何時もこのことを頭において、森や木に感謝しつつ山に登らせて頂くことにした。人間が勝手に入りこむのだから。

合 掌





## 環境問題を考える

札幌市北区 目黒 孝

今日、環境問題を論じるとなると、「総論賛成、各論反対」など一筋縄ではいかない面のあることは周知のとおりである。

近代工業の発達により、人類は資源を地球規模で移動させるようになり、大量の資源を消費する産業活動により、大量な排出物、廃棄物を地球環境へ放出して来たのである。

これら、廃棄ガス、廃棄物の量は、日本の環境容量を超え、最終的には環境汚染の影響が地球環境規模まで広がりを見せ由々しき問題となっている。

具体的に挙げれば

1. オゾン層の破壊.
2. 地球の温暖化.
3. 酸性雨.
4. 有害廃棄物の越境移動.
5. 野性動物種の減少.
6. 熱帯林の減少.
7. 公害問題.

これらは人類の無秩序な技術開発のつけではなからうか。

国連人間環境会議で「自己を取りまく環境を自己の出来る範囲で管理し規制する行動を一步ずつ確実にすることの可能な人間を教育する」と重要さを説いている。

自然との共生関係を築くには、自然科学から教育科学までを含めた総合環境問題を教え対処することの術を生み出すべきと思う。

環境問題にかかわる情報量は増大しており、これは環境教育を支える基にもなっており、学校、家庭、企業、社会などの環境教育の芽は着実に吹き出しはじめている。

21世紀は「生活体験」を通して環境問題を体で理解を深めるようにしなければならない。

一方、草の根の活動の人、ボランティア団体が各地に生まれ、その活動はすばらしいものがある。

その実践活動の正しい評価と輪を広めるために、情報と交流の場が必要であり、それにより、この道の人材育成にもなるので、何かそのような機会を提案いたしたいと考える一人である。

# 平成4年度 野幌森林公園事務所の森林観察会(案)

## ◎ 四季の森林観察会

(北海道ボランティア・レンジャー協議会協力)

- \* 春の森林観察会 平成4年5月10日(日) 9:30~14:30
- ◎ 夏の森林観察会 平成4年8月9日(日) 9:30~14:30
- ◎ 秋の森林観察会 平成4年10月18日(日) 9:30~14:30
- ◎ 冬の森林観察会 平成5年3月7日(日) 9:30~14:00

[集合場所や観察コースなどは、1ヶ月前までに決定します。]

## ◎ 月例観察会(北海道ボランティア・レンジャー協議会協力)

[北海道開拓記念館集合で、開拓記念館周辺を散策します。]

- ☆ 4月の月例観察会 平成4年4月9日(木) 10:00~12:00
- ☆ 7月の月例観察会 平成4年7月9日(木) 10:00~12:00
- ☆ 11月の月例観察会 平成4年11月12日(木) 10:00~12:00
- ☆ 12月の月例観察会 平成4年12月10日(木) 10:00~12:00
- ☆ 1月の月例観察会 平成5年1月14日(木) 10:00~12:00
- ☆ 2月の月例観察会 平成5年2月11日(木) 10:00~12:00

## ※ 関連行事(北海道ボランティア・レンジャー協議会主催)

(北海道野幌森林公園事務所 協力)

- \* 環境週間行事 平成4年6月7日(日) (時間未定)
- \* 野幌自然観察の集い 平成4年9月6日(日) ( " )

[集合場所や内容などは、1ヶ月前までに決定します。]

お問い合わせ先

北海道野幌森林公園事務所(公園管理部公園利用課)  
〒004 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0455(内線42番)

## 「ボランティア・レンジャー」になって

札幌市

佐々木 幸夫

ボランティア・レンジャーになってから早いもので4年目を迎える。もともと林業関係の仕事に携ってきたものでもないから、特別自然観察についての知識があった訳でもない。ただ自然が好きで、たまたま北海道が自然保護の普及啓発を目的とした「ボランティア・レンジャー育成研修会」を催して自然解説員を養成し、その研修でそれらの知識を修得したらボランティア・レンジャーなる称号？を得て、自然観察にかかわるボランティア活動に従事できるとのことである。早速、元関係者から情報を入手して受講した会場が旭岳温泉のえぞ松荘であった。

記憶としてそのその期間中、さして好天に恵まれなかったような気がする。時々当時を回想して、その時の担当者であった道保健環境部自然保護課保全係長の沼田さんから送って頂いた写真を見ると、天候がさして良くないことが伺える。

それでも、私にとってはこの種の研修は初めてであり、緊張と興奮に満ちた時間で終始した。研修の内容は盛り沢山であり、講師の諸先生も懸命だし勿論受講する側でもそれに劣らず頑張った筈である。(と私は思った)

しかし、私にとってはこの研修を受けて「私はボランティア・レンジャーでございます」と言える状態ではなかった。この後、どんな形でボランティア・レンジャーとしての自らの質を高めることが出来るのかと思っていたが、研修最終時に北海道ボランティア・レンジャー協議会会長の河村千束さんが来られて、協議会への加入勧誘があり、そのとき配付された会則を読んでその目的に強く共感を覚え、早速加入したのである。

それから今日まで会員として行動してきたのだが、「こんな形での協議会で良いのだろうか」と、自問自答している。会員の皆さんはどのようにお考えだろうか。年額3000円についても高いのか安いのかその人の判断だろうが、折角の会員でありもっともっと会員相互の情報交換が必要でないだろうか。私は今年の4月から、ほとんど毎日のように野幌森林公園へ行く予定だ。ここで自分自身が自然から学んだり自然観察の案内をする時間に費いやされることになるが、それと同時に道内の会員の皆さんが気軽に寄られて情報を提供してもらえればと、今から大きな期待感を持っている。

この会報第20号が、皆さんの手元に届くのが2月中旬と予想して書き進めているので、差当り本年度の私達の協議会が関連する自然観察会は2月13日(木)

午前10時から12時までの時間帯に、北海道開拓記念館前集合で月例観察会が野幌森林公園事務所主催、北海道ボランティア・レンジャー協議会協力で開催され、さらに3月1日(日)は午前9時30分から午後2時までの時間帯で(四季の森林観察会)の「冬の観察会」が、江別市文京台の大沢口から大沢口幹線→大沢園地(昼食)→桂コース→大沢口の順でのコースで自然観察を楽しむ。これも月例観察会と同じ主催・協力で実施される。

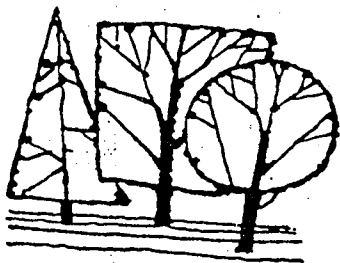
月例観察会の下見は今のところ積雪期間だけしていないが、「冬の観察会」は2月23日(日)午前10時大沢口集合で下見を行なう。是非参加して頂きたい。その機会に色々話し合いも出来るし、連帯感も強くなるのではと思っている。また、月例観察会もボランティア・レンジャーにとって恰好の勉強の場だ。

総体的に野幌森林公園では、樹種の典型的(独立樹として)な樹形があまり見られないものの、森林内での競合・共生の樹形が確認できる。公園では樹種・草種が豊富だから、ここで基本をマスターすると全道各地での自然観察会に対応が可能になる。それに若干、道南の植物・昆虫類を補完的に上積みすればよい。

いずれにしてもボランティア・レンジャー同士が、気軽に会える場所が必要になる。それで当面、野幌森林公園がボランティア・レンジャーのホームグラウンドであるから、公園事務所に既施設の一部にスペースを造って頂くようお願いしているが、その実現に大きな期待を持っている。

樹木の落葉期間はその樹木の基本型が良く観察できるので、じっくり勉強すると着葉期間に大きく役立つ。

実際の自然観察会でボランティア・レンジャーが協力してくれるのは、特定で思ったより拡大しない。その原因は何なのか、仲間がどんどん増えるのにはどう対応したらよいのか。これらについても会員皆さんの意見を伺いたいと思っているが、これも野幌森林公園にいたら聴ける機会が多くなるのではと、願っている。



(広報担当 1992・2・1 記)

## ◇ 図書の紹介 ◇

自然景観の読み方 4 「森を読む」 大場秀章 著  
岩波書店発行 定価 1,200円

本書は広く日本の森林について知ることが出来、ボランティア、レンジャーにとってもいろいろ参考になる図書です。

目次を見ると 1. 木を読む 2. 森の姿 3. 照葉樹の森 4. ブナ、ミズナラの森 5. 山の森 6. 二次林と人工林 7. 森を見る視点 8. 地球の森—過去、現在、未来—の構成です。

具体的に内容の一部『図鑑の生かし方』を紹介します。

『植物で図鑑といえ、ふつう植物の種の特徴を文章と画や写真で解説した参考書である。

以下に主な樹木関係の図鑑類を挙げておく。

北村四郎、村田源：原色日本植物図鑑木本編 i (1971年)、ii (1979年)、保育社。

佐竹義輔、原寛、亘理俊次、富成忠夫編：日本の野生植物 木本 i、ii (1989年)、平凡社。

林弥栄編：山溪カラー名鑑、日本の樹木 (1985年) 山と溪谷社。

小野幹雄他編集：改訂増補牧野新日本植物図鑑 (1989年)、北隆館。

奥山春季編：寺崎日本植物図譜 (1979年)、平凡社。

右に挙げた図鑑類のうち、北村他と佐竹他編は日本に産する樹木全種を網羅し、分類群ごとにまとめ、近縁種との差異が検索表によって明らかにされ、各種ごとに特徴などがくわしく記述されている。図は北村他は原色画、佐竹他編は原色写真による。小野他編集、奥山編は樹木だけでなく草本や栽培植物をも掲載するが、日本産の全種を網羅したものではない。図は白黒の線画で、記述は個別的で、近縁種の存在とそれらの比較には不便である。林編は日本産樹木をほぼ全種、原色写真で網羅するが、その解説は個別的で、近縁種、類似種などとの比較がむずかしい。

蝶や甲虫などの図鑑では、図示された標本や図と寸分違わぬような個体が野外に実際に存在する。だから絵合わせによって、調べようとする昆虫か何

か、およその検討をつけることができる。さらに、蝶や甲虫では、成体に達した個体であれば、その昆虫を他から区別する特徴のほとんどを備えているので、解説や記載を読み異同を調べることで同定が可能である。

植物はどうだろう。高さ30メートルにもなる樹木の全形などそもそも図鑑にそのまま印刷すること自体不可能に近いが、他の点でも植物は昆虫のような絵合わせはできない。樹高だけでなく、葉、ときには花のサイズには幅の広い変化があるためである。さらに、植物の場合、花と果実の時期を中心に、特徴が分散しているなので、ある時期の個体はその種がもつ特徴の一部しか具えていない。

こうした植物自体のもつ性質に合わせて植物図鑑の多くは、花と果実の両方を図示しているが、サイズの変化については記述に頼るしかない。画では意識的に、その植物の特徴を最もよく表すように再構成されている。臨場感に優れた写真であるが、それは幅広い変異の中のひとつにすぎないため、変異の幅が広い種では、同一種でも個体によってはかなり違ってみえてしまう。カラーによる図は画でも写真でも、色により多くの情報を伝える点では大いに優れている。しかし、種の識別に重要なかたちのちがいを知るためには、白黒の方が色のちがいに惑わされず、勉強家向きによい。

こうした点も含め、図鑑は使い方に習熟することが大切である。以下に注意すべき点をいくつかあげておく。

- (1) 絵合わせは、調べようとする植物が何の仲間か検討をつけるのに便利であるが、他人のそら似であることや、似た種は別の科や属にある可能性を忘れないこと。特に、画も写真も葉のあ積みのような質感を示すのに不向きである。
- (2) 調べようとする植物については、花や果実を探す。
- (3) かたちのちがい、花卉や雄しべなどの数、葉の互生、対生、輪生など配列に特に注意する。
- (4) はじめは時間がかかっても丹念に解説や記載と照らし合わせ調べる。調べながら関連の植物も含め特徴を記憶しておくとうい。
- (5) 調べた植物はおしば標本などにして保存し、機会があれば博物館などの専門家や植物に詳しい人に自分の調べた結果を述べ、正してもらうとうい。』

注) 縦書き文を横書きにしたので表現不一致の個所がある。

（お 願 い）

協議会組織について

地方幹事の皆様、お元気で冬季の自然に親しんでおられることとお察し申し上げます。

私共、協議会にも新会員のかたがたが、多数入会されつつあり、新しいパワーが大きく活動の支えとなっております。

皆様には、ご多忙のところ申し訳ございませんが、地域のかたがたとご相談いただき、ブロック組織の結成にご尽力くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

クマゲラの一斉調査協力について

野幌森林公園を守る会の柳沢信雄会長より、当協議会に前回同様に調査の、協力依頼がありました。

私共のフィールドとしての、森林公園でもありますので、皆様ご都合つきます方はよろしくご協力お願いします。

なお、本年は昨年放鳥された札幌市内での保護鳥2羽の、確認が大きく期待されるとのことでございます。

日 時 3月8日（日）9、00～14、00

集 合 9、00開拓記念館前（小雪決行）

持 参 昼食、 歩くスキー、 山スキー、 （ある人は）持参でない

かたは、 雪の入らない靴、かんじき、 双眼鏡 （ある人は）

防寒服装、

事務局 江別市大麻中町 26-18-416

松山 潤 ☎387-1317



（総 務 部 ）

編集後記

「エゾマツ」第20号をお届け致します。年度末で多忙の中で作業を進めましたので、カット等が雑になったことを反省しています。

20号は一つの活動の節目と考えます。

20号まで仕事に係わらせていただき大変勉強になりました。今後とも更に努力をしたいと思っておりますので、ご指導とご鞭撻をいただければ幸いです。

— 山上 —